

保姆への希望

東京女子高等
師範學校教授

佐々木 等

見たこともないものゝ説明をせよと言はれても、その真髓を擲んで話すことは六ヶしいことである。食べたことのない食物の味を説明をせよと言はれても之又難事である。私は幼稚園さいふものを知らないで保姆への希望なきゝいふテーマを掲げて論ずることには、烏滸がましき極みである。自分でも感じて居るのでありますが、丁度子供を幼稚園に通はせたこともあり、又幼稚園に行く頃の子供も居るので、多少幼稚園さいふものはどんなところかさいふ見當がつく様に思はれる。しかし之は自分丈けのことであつて、他人には響かない問題かも知れないが、素人の見方さいふものは思切つたことを言へるものであるから、暫らく素人の幼稚園の皆様に對する希望を述べさして頂きませう。それにはあの時代の子供について觀察して見る必要が先行する。

あの時代の子供さいふものは驚くほゞ正直なものだ。お腹が空いて來れば餘程賸けられなければ食べたいさいふ氣持を抑へることの出來ない時代である。殊に甘いお菓子については餘程魅力を感じるらしい。

子供の胃袋は割合に小さいから、一時に澤山食べられるわけには行かない。従つて間食の必要が起つて來るわけだ。お八つ。さいつて朝の十時三午後の三時頃は子供が最も楽しい時で時計の見方を早く覺えるのはお八つを食べたいばかりに覺えるのである。即ち食せんさする自然的の心の叫びが、彼等に時計の針の指しきころを覺えさせるのである。食ふさいふことは子供が育つために、必然的に要求される本能の働きである。彼等を導くに、お菓子によつて、果物によつて指導するこ

こも一方法であるかと思ふ、がしかし幼稚園時代は教へるこが多くてはならない。近頃の幼稚園は教へ過ぎて居やしな
いか靜かにふりかへつて見る必要はないだろうか。

そうはいふものゝ、子供といふものは大人を學ぶものであるからかくくすべきである。大人に要求するが如く要求す
るこは當を得てゐないとしても、子供らしさを失はない程度に於て、正しき方向へ導くこを忘れてならない様に思ふ。

食ふこに關聯して種々なる注意が與へられなければならない。之れは全國津々浦々の幼稚園の保母方の十二分に了解
して居られる常識であつて、今更私如きものゝ云爲するを要せざるこは思ふが、子供の手といふものは實に不潔にな
り易いものであるといふこに氣づかなければならない。

それに氣づいたら、手をよく洗はせるがよい。手を洗はせるこは、只汚いからといふだけではない。子供時代
に恐ろしい消化不良に陥る原因は此手から來るこに注意しなくてはならないのである。

例へば砂遊びをする。汚い話であるが、犬の糞なごや、他の子供の小便なごしてあるこを平氣で砂いぢりをして遊
ぶといふこがある。そんなこで遊ばさなければよいのであるが、しばくそんなこがある。又その邊の手摺こ
か、三和土こか石段こかを平氣でなごたりするものであるから、幾多の黴菌が手に附著する。その手を以てお菓子や果物
なごを食べたこには病氣を起さないこが、寧ろ不思議といふべきであつて、大抵かゝる些細なこが原因となつて取
返しのつかないこなる場合がなしこしない。故に手は綺麗に洗ふ習慣をつけるこを此時代から考へてやるこを要
すると思ふ。

次に植物の發育する爲めには相當の水分を必要とする如く、子供が育つ爲めには大人の想像以上に水分を必要とするも
のである。子供がよく咽喉が干いたこいつて、水呑場に殺到するのは大人の比ではない。彼等は、常住遊ぶ中に水がなく

ては居れないと見えるらしい。此の要求も、彼等が發育するためにはなくてはならないものであるに違ひないから、又水を呑むなと云はずに、良い質の水であれば適度に與へてやることを忘れてはならないと思ふ。

子供が發育する爲めに、食物を體外から攝取することは既述の通りであるが、彼等は食べるこいふ以外によく遊ぶものである。彼等の遊びこいふものは實に愉快そのものであつて、大人の想像も及ばないところであるに違ひないと思ふ。

彼の人形遊びを見よ、彼のマ、ゴト遊びを見よ、彼の砂遊びを見よ、一として彼等が生活に眞剣味を與へないものはないのである。本當のお母さんになつたり、本當のお父さんになつたり、本當にトンネル開鑿の工夫の氣持になつたりして居る。遊びは彼等に取つては頗る大事な發育要素なのである。あの時代に於ける子供の遊びは精神の發達に、身體の發育に頗る重要なものであつて、もしそれ、あの時代から遊びこいふものを取除いたら一體さうなるだろうか言ふまでもなく、全く變挺子なるものになつて仕舞ふではないかと思像する。

遊びは自己教育の一形式であつて、之によつて、自己の内容が豊富になり、對他的、意識が高められ社交性は養はれ、一層自己の存在が明かになり、益々自己を擴充しようとするに到るものである。自己を擴充するこいふことは、決して他を排斥するこいふ意味のものではない。他と協力しながら自己を擴充して行くこいふことが出来るのである。

あの時代は自己的の時代であることは否むわけには行かない。従つて他と争ひをなすこいふことが屢々ある。その争たるや實に單純であつて、何かの奪ひ合であるこいふことが多い。例へばお菓子が多寡とか、詰らないもの、自己占有とか原因をなして居る場合が多い。しかしながら、大人と違つて、あの時代の争ひは直ぐに忘れて仕舞ふものである。

遊びなきに於ても時折争ひが起る。縄跳で誰さんが先に跳んだとか、一遍跳ばせなかつたとかいふこいふことが原因で泣いたり騒いだりする。

かゝる遊びの間に、漸次洗練されて、圭角は多少なり削られて来るものである。遊びによつて本當の人間が出来上る言はれて居るが如く、全くその通りであると思ふ。

Man is whole when he plays.

更にあの時代にはよく遊びよく食べてよく眠るものである。大人であつても、毎日／＼此の三つの仕事を繰返して居る言はれる位であるが、子供の時代は特によく睡眠を取る必要があることを輕視してはならない。

之皆彼等が伸び行かんことを自然的要求であつて、その要求を最もよく、最も無理のない様に導いてやることが保母の責務ではないかと思へるのである。

あの時代の子供は種々な言葉をよく覺えるものである。先生といふ言葉の内容は、恐らくあの時代ほゞしつくりして感得して居る時代はないではないかと思ふ。

従つて先生の一舉指一投足が直ちに子供等の鑑となるのである。言葉違ひは勿論のこゝの禮の仕方、歩き方なごまでよく影響するものである。あの時代の先生はオールマイテイである、先生のすべてを信する時代である。先生には汚ないこゝなごあり得ないことを考へる時代である。

先生の服裝がキチンと整つて立派であれば、何きよい先生であらうと感得するに違ひないばかりか之を模倣しようと思へるのである。

あの時代の子供は正直だに茲に述べたが、美を美と感し、醜を醜と感するこゝも、かく判断するこゝも正直である。従つて、美しい感じのする人が、彼等によい感じを與へることを思ふとき、他の社會の人々よりも、美しい人達が保母として望ましい様に思ふ。勿論、單に外形的の粉飾の美だけでなくて、精神の美も抜きにするわけには行かない。否寧ろ此こ

を忘れてはならないのである。徒らに絹絲の美を以て美なりとするこゝは誤れるものさいふべきである。

尙ほ望ましきこゝは、子供等の心になり切るこゝにつきめるこゝそれである。子供等の心になり切る様にさいつても、全くなり切るわけには行かないかも知れない。何故なれば大人であるからである。けれども、努めて、彼等の心持を心持として生かして行くこゝがなくては眞の保母ではないと思ふ。印度の詩聖タゴール翁は、大人も赤子の心を失ふ勿れさいつて居るが、私も一歩進んで赤子の心と一體になる様にするこゝがあつて欲しいと思ふのである。タゴールの言つて居るこゝは、多少意味が違つて居るかも知れないが、眞に子供の立場に立つて子供等の相手となるならば、必ずや彼等は満足するに違ひないと思ふ。

嘗て私は小學校の低學年を擔當した經驗を持つて居るが、「晨に新しいシャツを着て、夕には泥まみれになる」こゝ決して珍らしいこゝではなかつた。彼等は自分よりも強いもの大きなものを倒すこゝに無上の快感を感じるらしい。従つて、運動場に出て行けばきまつて引髈されたものであつた。それ丈けならまだよいとしなければならぬが、シャツを引張る。その手は汚い！中には鼻の下の二本棒をシャツにくつゝけるし倒しては馬乗りに乗る！丸で蚯蚓に隙間なく蟻がついて居る様なもので、白いシャツは臺なしになるさいふ有様であつた。

之を以て子供を叱るこゝは當を得たものではない。彼等の精神的満足を與へてやるこゝは、教育上如何に有價値なるものであるかを考へるこゝ、嗚呼自分はよいこゝをしたさ嬉しくなつて仕舞ふ。之は自分の淺い經驗であるから皆さんの御参考にはならないかも知れないが、眞に子供の心となつて彼等と同一體となつたさき其處に始めて自己を忘れるさいふ崇高なる感に打たれるのである。子供は神の子である。神の子の直ぐ、すくよかに伸々さ伸び行くこゝを眺めて、誰か快く思はないものがあるであらうか！私の皆さんに望むこゝは此一點にかゝるのである。暴言多謝。(一〇、六、一二、土)